

渋谷区教育委員会 殿

渋谷区立原宿外苑中学校長
駒 崎 彰 一
(公 印 省 略)

令和 4 年度教育課程について (届)

このことについて、渋谷区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記の通り編成をいたしましたのでお届けします。

なお、各法令及び学習指導要領等に基づき、人的・物的な資源を活用しながら生徒、学校、地域の実態や社会の情勢等に応じ、適正で、安全かつ柔軟に実施にあたり、しなやかにカリキュラムをマネジメントしてまいります。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

「超スマート社会」とも言われる「Society 5.0」の到来に伴い創出される新たなサービスやビジネスによって、我々の生活は劇的に便利で快適なものになっていくといわれています。一方で、人類がこれまで経験したことのない大きな変革期を迎えるともいわれる中で「AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等」の高度化した先端技術を使いこなし、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材育成が求められています。

このようなグローバル人材(次世代人材)の育成を目指し、激動の時代をたくましく歩んでいくための「生きる力」を育むため、次の目標を設定します。

○ Communication

多様な他者との主体的な「コミュニケーション」により
「自分のよさや可能性を探究する」とともに
「あらゆる他者を価値のある存在として尊重」することができる

○ Collaboration

多様な他者との協調・協働「コラボレーション」により
「様々な社会的変化を乗り越える」ことができる

○ Innovation

多様な他者の考えを統合することにより
「新しいコト・モノ」を創出できること(イノベーション)を知り
「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手」となることができる

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア コア・コンセプト

Connect to the Future — Challenge & Evolution —

未来へ継承

挑戦と進化

めざすのは「ちがいをちからに変える学校」 あなたと誰かの「ちがい」はすべて
この学校のちからになっていきます あなたが存在しなければつくりえない未来がある
原宿外苑中学校のすべてのちがいをちからに変えて
未来社会を見据えた「未来の学び」を創造し 「未来の学校」を構築する
これからの未来社会をたくましく生き抜くグローバル人材をめざして
限りない「挑戦」とたゆまぬ「進化」によって すべてを「未来へ継承」する

第1表の2 中

イ マルチ・コンセプト

Just do it! HarajukuGaien

やっちゃえ 原宿外苑

「世界水準の学び（グローバルな学び）」の構築に向けた「学びのイノベーション」が求められています。これまでやってきた教育活動を踏まえ、「未来の学び」を試行錯誤して構築していく必要があるといわれている中で「新たな課題」が数多く出現することが予想されます。これらの課題を乗り越えるためには、「実行力」が重要です。子供たちのために「良いこと」はとことんやる。そして、やり切る「突破力」も必要です。この「実行力・突破力」を引き出すためにJust do it! HarajukuGaien “やっちゃえ 原宿外苑” をキャッチフレーズに新しい教育活動を展開していきます。

ウ 具体的な方針

(ア) 子供たちの未来を最大化する —Communication—

将来、自身のコミュニケーション能力で「学び」を広げることのできる力（学び続ける力）を育成すること。そして、子供たちは自分のスキル（資質・能力）で、自分の未来を最大化することができるようにすることが、これからの学校教育に与えられたミッションであると捉えています。このために、キャリア教育の視点から授業を再構築し、各教科のねらいを達成することはもちろん、実社会につながるスキル（資質・能力）の育成の視点から授業の本質を問い直していきます。「社会の課題解決という視点が新たな価値を創造する鍵になる。」多くの企業がこのような視点で経営戦略を展開しています。「学びのイノベーション」もこの視点が重要であると捉え、「学びと社会をつなぐ」ことが必要であると考えています。子供たちにとって「良い課題」を設定し、主体的に試行錯誤し、多様な他者とのコミュニケーションにより新たな課題を解決するような「学習者主体の学び」の創造を進めていきます。

(イ) 協調型問題解決能力（Collaborative problem solving）の育成 —Collaboration—

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、未来社会を見据えた「未来の学び」を創造していきます。このために学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」「言語能力」「問題発見解決能力」の育成を図ります。この資質・能力の育成のために3つの視点から「未来の学び」の創造にアプローチします。学校図書館・ICTの活用（情報活用能力）、議論する学び（言語能力）そして、外部人材の活用（問題発見・解決能力）を展開します。

○ 学校図書館・ICTの活用（情報活用能力）

スマートフォンやタブレットPCなど情報機器の使いやすさが向上して、子供たちが情報を活用したり発信したりする機会が増大しています。また、IoTやAIなどによってデータを分析した最適な解が導き出される時代となってきました。このような時代は、あらゆる活動において情報を適切選択・評価して活用することが不可欠な社会。そうした社会において、情報を的確に捉え、何が重要かを主体的に考え、見出した情報を活用しながら他者と協調し、新たな価値の創造に挑んでいけるような「情報活用能力（情報モラルを含む）」の育成に向けた「学び」を学校図書館とICTとの活用により目指します。

学校図書館の「読書センター」としての機能に加え、「学習センター」、「情報センター」として活用することで「学び」の場を構築します。学校図書館では書籍で調べたものをインターネットで広げ、インターネットで調べたものを書籍で確認するといった「情報を収集して評価する」といった「学び」を創造していきます。

ICTの活用については、インターネットでの検索だけではなく、ツールとしての活用を徹底します。さらに、「最新のテクノロジーを導入して活用することで社会の課題を解決すること」をコンセプトにさらなる活用を進めています。単に教育用にカスタマイズされた仕組みで授業するのではなく、授業をデザインする中で必要な部分（効果的な部分）に実社会にあるテクノロジーを活用するといったスタイルで「学びの創造」を進めていきます。

○ 議論する学び（言語能力）

子供たち同士、教職員や地域住民・外部人材、先哲の考え方を手掛かりに、個々が考えたこと等の「議論」を通じて協調し、自己の考えを広げ深めることを全ての学びの中心とします。言語活動により他者との多様な考えを融合することで、「協調型問題解決能力」の育成を目指します。

○ 外部人材の活用（問題発見・解決能力）

主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働する重要性などを実感し、問題（課題）を発見・解決することを理解することができるように、実社会の「ホンモノ」に触れ学ぶことは重要です。地域・家庭・社会と連携・協働して、外部人材を積極的に導入し「ホンモノ」に触れる「学び」の機会を多く取り入れていきます。外部の人材を導入することで、「学校の常識」という既成概念を「社会の常識」に近付けていきます。

(ウ) 家庭・地域・社会との連携・協働 —Innovation—

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、家庭や地域への情報発信に努めるとともに、家庭・地域・社会の力を学校の教育活動と協調させ、学びのイノベーションを誘発します。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科

(ア) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

未来社会をたくましく生き抜くスキル（資質・能力）を育成するため、各教科の授業デザインの転換を図ります。その手段として「知識構成型ジグソー法」の手法を1つの型として導入し、学びの変革を目指します。

これまでの一斉指導によるバブル型知識（覚えるだけの知識）の習得から可搬型（持ち運びができる）、活用可能型（課題解決に活用できる）、発展持続型（自発的に学びを広げる）の知識へと転換することにより確かな学力を育成していきます。

(イ) 「個別最適な学び」の構築

指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図ります。

「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を展開する中で、個々の学習に関する悩みの理解や興味・関心・意欲等を把握し「指導の個別化」と「学習の個性化」を意識した指導により「個別最適な学び」の構築を目指します。

また、ICTの活用により学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上の情報等を利活用して、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、学びに向かう力を育成していきます。

(ウ) 学びと先端技術（テクノロジー）の融合

タブレット端末をはじめとする先端技術（テクノロジー）と学びの融合を目指します。実社会で活用の広がる先端技術（テクノロジー）を学びとつなぐことで、先端技術（テクノロジー）を課題解決のツールとして使いこなすスキルを育成するとともに、デジタルシチズンシップ（テクノロジーの利用における適切で責任ある行動規範）の育成に取り組めます。

(エ) 学習指導と評価の一体化（LMS 学習マネジメントシステムの構築）

各種の学習状況調査や定期考査等により評価活動を充実させるとともに、評価と学びをつなぐ仕組みを構築していきます。学習者に向け「個別最適な学び」につながる評価を目指すことや指導者には授業デザインの変革の指標として、学習指導と評価の一体化により「学び」を充実させていきます。

また、「学習シラバス」を地域、家庭、生徒に公開することで学習指導と評価の一体化を推進するとともに「学びの道標」として、地域や家庭を巻き込んだ「学び」を展開します。

イ 特別な教科 道徳

(ア) 教育活動全体の道徳教育の要としての道徳の授業の充実を図り「自立した一人の人間として、人生を他者とともにより良く生きる人格を形成すること」（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度等の育成）を目指します。具体的には、学年担当教員がチームを組み、チームとしての教材研究にあたりるとともに道徳教育推進教師を中心に評価についても学校全体で充実させていきます。

(イ) 家庭や地域との連携を深めるために「道徳授業地区公開講座」を実施します。

地域や家庭で大人も真剣に考え、議論する内容を設定し、校外に向けても学びを広げていきます。

(ウ) タブレット端末や先端技術（テクノロジー）と道徳科を融合させることで、これからの時代に必要な情報活用能力（情報モラルを含む）やデジタルシチズンシップ（テクノロジーの利用における適切で責任ある行動規範）の育成にあたります。

ウ 総合的な学習の時間（Challenge Time 通称：CT）

- (ア) 探究的な学習の過程を一層重視することで、各教科等で育成をしている資質・能力を相互に関連付けていきます。また、「学び」が実社会・実生活において活用できるものであると実感させていきます。さらに、学習の基盤となる言語能力・情報活用能力（情報モラルを含む）・問題発見解決能力の育成にあたります。
- (イ) チームによる PBL（Project Based Learning）を展開することにより、多様な他者と課題をブラッシュアップし、その課題を解決するまでの過程で様々な知識（可搬型知識、活用可能型知識、発展持続型知識）を得ていく学びを展開します。
- (ウ) 地域学習と融合できるものを「シブヤ科」として設定し、地域との協働による課題解決にあたります。
- (エ) タブレット端末や先端技術（テクノロジー）と総合的な学習の時間を融合させることで、これからの時代に必要な情報活用能力（情報モラルを含む）やデジタルシチズンシップ（テクノロジーの利用における適切で責任ある行動規範）の育成にあたります。

エ 特別活動

- (ア) 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つを視点から学級活動、生徒会活動、学校行事等の様々な集団活動を意図的に展開していきます。
- (イ) 「人間関係形成」に必要な資質・能力を育成するために、集団活動での個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で、年齢や性別・考え方や関心・意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることができるよう活動を展開します。
- (ウ) 「社会参画」に必要な資質・能力を育成するために、自発的・自治的な活動の充実を図ります。個人が集団へ関与する中で、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことができるよう活動を展開します。
- (エ) 「自己実現」に必要な資質・能力を育成するために、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において「現在の自分」や「将来の自分」に関わる課題を考察することができるよう活動を展開します。

(2) 特別支援教育

学びや生活、人間関係等に不安のある生徒への支援を充実していきます。特別支援教育校内推進委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織での対応にあたります。生徒一人一人の学びや生活、人間関係の状況の把握を組織的に行い、支援の必要な生徒には、保護者との連携により「個別指導計画」や「学校生活支援シート」を作成し、適切な支援にあたることができるよう体制を構築します。

支援を要する生徒のニーズに応じて、特別支援教室や学習支援員等による個別指導等を行います。校内での生徒の状況把握や、どのような支援を必要としているのか、保護者・地域と密に連携を取り、生徒の状況に応じて適切な関係諸機関との連携と多様な学びの機会を生徒に提供していきます。

インクルーシブ教育システムの構築を図るため、全教員の特別支援教育に関する基礎的な知識・技能の向上を図る研修を行うとともに学校の運営上変更が必要な事案に対しては、スピード感をもって対応します。また、必要に応じて、外部の人的資源の活用により、専門性を高めていきます。

特別支援学校等の副籍生徒のニーズに応じて、直接または間接的な交流活動等を積極的に行っていきます。

(3) 創意ある教育活動

ア グローバル人材育成推進校

単に語学（英語）教育を充実させるだけではなく、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材育成を進めていきます。

すべての学びを通して「グローバル人材育成」を意図的に進めるとともに、TGG（Tokyo Global Gateway）での活動を1年次だけではなく2年次においても実施します。

イ 小・中連携教育

近隣の4小学校（千駄谷・神宮前・鳩森・代々木山谷）との「学び」の連携を進めていきます。あらゆる教育活動を「連携の視点」から再構築し、連携できるものについてはすべて連携した取組を実践していきます。

ウ 主体的に「学ぶ」ための環境構築

主体的に「学ぶ」ことのできる校内の環境構築を進めていきます。学習室やストリートピアノ、頭の体操コーナー、朝のスポーツ活動により、主体的に学習習慣や運動習慣が構築できる環境づくりをしていきます。

(4) 生活指導

人権尊重の精神を基盤に生活面に関する指導の充実を図ります。

生徒の主体性を最大限引き出すとともに、他者との対話によって、様々な課題を試行錯誤しながら解決していく指導を展開します。さらに、誰一人取り残されることなく「充実した中学校生活」となるように、以下について指導の充実を目指します。

- いじめ防止基本方針による指導の徹底
- タブレット端末やスマートフォンの活用の実践指導
情報活用能力（情報モラルを含む）、デジタルシチズンシップ
- 安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）の実践指導
- アレルギーや健康面等に不安のある生徒への教職員の支援

(5) 進路指導

すべての教育活動において「キャリア教育」の視点から活動内容を見直し、指導を展開します。第1学年での職場体験学習を起点に、未来社会につなぐ「学び」の創造を目指していきます。

進学指導については、生徒自身が進路決定に関する情報を収集・分析し、主体的に進路決定をすることができるように指導するとともに、保護者との連携を図り、自己実現に向けた、より良い進路選択ができるよう指導を展開していきます。

第3表 中

学校名 渋谷区立原宿外苑中学校

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	17	20	23	14	2	22	19	21	18	17	20	18	211
2	18	20	23	14	2	22	19	21	18	17	20	18	212
3	18	20	23	14	2	22	19	21	18	17	20	14	208
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年は、4月7日が入学式のため、授業日数は1日減となる。 ・第3学年は、3月17日が卒業式のため、授業日数は4日減となる。 ・4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月、2月は振替なしの土曜日授業を実施のため、それぞれ1日増となる。 ・9月は振替なしの土曜授業を実施のため、2日増となる。 												

(2) 各教科等の年間授業時数配当表

教科等		学年		
		1	2	3
各 教 科	国語	140	140	105
	社会	105	105	140
	数学	140	105	140
	理科	105	140	140
	音楽	45	35	35
	美術	45	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語(英語)	140	140	140
	小計	895	875	875
道徳		35	35	35
総合的な学習の時間		50	70	70
特別活動(学級活動)		35	35	35
総計		1015	1015	1015

備	考		
<p>ア 1 単位時間 ・1 単位時間は50分として実施します。</p>			
<p>イ 総合的な学習の時間 (Challenge Time)</p>			
シブヤ科	第一学年	第二学年	第三学年
探究課題	私たちの街について考えよう	誰にとっても安心・安全な街を作 っていこう	街を創ろう
単元名	★原宿外苑のガイドブックを作 ろう (48)	★避難・防災訓練の計画を立てよ う (68)	★自分の人生を、生きていく 街のデザインを考えよう (70)
1 次	○私たちが毎日通う「原宿外苑」 とはどんなところ? (12) ・地域調べ ・スポーツ志向	過去の災害から学ぼう (20)	30年後の街と自分を考えよう (22)
2 次	おすすめの場所を探そう (18)	○避難訓練や防災訓練の計画を立 てよう (28) ・D級ポンプ訓練 ・障害者理解	「街づくり」を考えよう (28)
3 次	情報を発信しよう (18)	訓練計画を見直し、次の学年に引 き継ごう (20)	○街と、そこにいる自分をデ ザインし、発信しよう (20) ・ボランティアマインド
その他	自己の生き方を考える (17) ・職場体験 ・地域の職業を知り、自己の将来 を考える	自己の生き方を考える (5) ・上級学校調べ	/
<p>ウ 特別活動 学級活動に年間35時間、生徒会活動に年間50時間、学校行事に 年間80時間を配当します。</p>			
<p>エ その他 ・年間時数が35週で割り切れない教科への対応として、A時間割 (20週) B時間割 (15週) を実施して対応します。 ・火曜日を原則7時間授業とします。 ・月曜と水曜を5時間授業として、放課後の時間の年間70時間を 生徒会活動20時間、学校行事50時間に充てます。</p>			

第4表中

学校名 原宿外苑中学校

4 学校行事

月 日	4		5		6		7		8		9	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	金		日		水	振替休業日(3)	金		月		木	
2	土		月	開校記念日	木		土		火		金	
3	日		火	憲法記念日	金		日		水		土	土曜授業④ 学校公開日
4	月		水	みどりの日	土		月		木		日	
5	火	春季休業日終	木	こどもの日	日		火	安全指導	金		月	
6	水	始業式	金	セーフティ教室	月		水		土		火	安全指導
7	木	入学式	土		火	安全指導	木		日		水	
8	金		日		水		金		月		木	前期期末始
9	土		月		木		土	土曜授業④ 学校公開日	火		金	
10	日		火	避難訓練	金		日		水		土	前期期末終
11	月	定期健康診断始	水		土	体力テスト	月		木	山の日	日	
12	火	避難訓練	木		日		火	避難訓練	金		月	
13	水		金		月		水		土		火	避難訓練
14	木		土	土曜授業④ 学校公開日	火		木		日		水	
15	金		日		水	前期中間始(3)	金	薬物乱用 防止教室(1)	月		木	
16	土	土曜授業④ 学校公開日	月		木	前期中間始(12)	土		火		金	
17	日		火		金	前期中間終	日		水		土	
18	月		水		土		月	海の日	木		日	
19	火	全国学力学習 状況調査(3)	木		日		火		金		月	敬老の日
20	水		金		月	水泳指導始	水		土		火	
21	木		土	体育祭	火	避難訓練	木	夏季休業日始	日		水	
22	金		日		水		金		月		木	
23	土		月	振替休日	木		土		火		金	秋分の日
24	日		火	安全指導	金		日		水	夏季水泳指導始	土	
25	月		水		土		月		木		日	
26	火	安全指導	木		日		火		金	夏季水泳指導終	月	
27	水		金		月		水		土		火	
28	木		土		火		木		日		水	中学校陸上競技大会
29	金	昭和の日	日	修学旅行(3)始	水	道徳授業地区 公開講座	金		月	夏季休業日終	木	
30	土		月		木	定期健康診断終	土		火	避難訓練	金	水泳指導終
31			火	修学旅行(3)終			日		水			

第4表の2 中

学校名

原宿外苑中学校

月 曜 日 行事	10		11		12		1		2		3	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	土	平和・国際都市渋谷の日 都民の日	火		木		日	元日	水		水	
2	日		水		金		月	振替休日	木	校外学習(1)	木	
3	月		木	文化の日 東京都教育の日	土		火		金		金	避難訓練
4	火	安全指導	金		日		水		土		土	土曜授業④ 普通救命講習(1)
5	水	終業式	土		月		木		日		日	
6	木	秋季休業日始 中学校連合音楽会	日		火	安全指導	金		月		月	
7	金	秋季休業日終	月		水		土	冬季休業日終	火		火	軽可搬ボンプ 訓練(2)
8	土		火	安全指導	木		日		水		水	
9	日		水	後期中間始(3)	金		月	成人の日	木		木	
10	月	スポーツの日	木	後期中間始(12)	土	土曜授業④ 学校公開日	火	安全指導	金		金	
11	火	始業式	金	後期中間終	日		水		土	建国記念の日	土	
12	水		土	土曜授業④ 学校公開日	月		木		日		日	
13	木		日		火	避難訓練	金		月		月	
14	金		月		水		土		火	安全指導	火	安全指導
15	土	土曜授業④ 学校公開日	火		木		日		水		水	
16	日		水		金	中学校音楽 鑑賞教室(2)	月		木		木	
17	月		木		土		火	避難訓練	金		金	卒業式
18	火		金		日		水		土	土曜授業④ 学校公開日	土	
19	水		土		月		木		日		日	
20	木		日		火		金	なみき祭 (展示)始	月		月	
21	金		月		水		土	なみき祭 (展示)終	火	後期期末(12)始	火	春分の日
22	土	なみき祭(舞台)	火	避難訓練	木		日		水	後期期末(3)始	水	
23	日		水	勤労感謝の日	金		月		木	天皇誕生日	木	
24	月	振替休業日	木		土		火		金	後期期末終	金	修了式
25	火	避難訓練	金		日		水	スキー教室(2) 始	土		土	
26	水		土		月	冬季休業日始	木		日		日	春季休業日始
27	木		日		火		金	スキー教室(2)終	月		月	
28	金		月	職場体験始(1)	水		土		火		火	
29	土		火		木		日				水	
30	日		水	職場体験終(1)	金		月				木	
31	月				土		火				金	